

**イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高まっています**

イネ縞葉枯病の多発生が懸念されるため、  
育苗箱施薬によるヒメトビウンカの防除を徹底しましょう！

[発令の内容]

作物名 : 水稲  
 病虫害名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)  
 発生量 : 多い  
 発生地域 : 県西地域, 県南の一部地域

[発令の根拠]

- ① 平成 28 年 3 月に県西地域, 県南地域 (つくば市) の水田畦畔等から採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス (以下 RSV) の保毒虫率を調査した結果, 県西地域の 10 地点中 9 地点および県南地域の 2 地点中 2 地点で 10%以上の高い値になり (表 1), イネ縞葉枯病の多発生が懸念される。
- ② 平成 27 年 9~10 月のヒコバエ (再生稲) 調査では県内全域で本病の発生を確認し, 特に県西地域を中心に発病株率の高い地点が多くみられた (平成 27 年 10 月 30 日発表 病虫害速報 No. 6 参照)。

表 1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の RSV 保毒虫率

地域	調査地点	保毒虫率 (%) <sup>1)</sup>			
		平成26年	平成27年	平成28年 <sup>2)</sup>	
県西	結城市	大谷瀬	3.1	—	12.8
		小田林	16.7	22.1	27.7
	下妻市	大宝	11.5	17.9	30.9
		大園木	—	—	29.3
	常総市	本豊田	—	20.0	13.8
		二木成	21.9	35.3	34.6
	筑西市	西方	18.7	—	34.6
		久地楽	—	—	27.1
	桜川市	加茂部	—	1.1	5.9
		真壁町白井	—	11.6	10.1
県南	つくば市	大形	6.2	6.0	22.1
		上菅間	—	—	13.9

1) 平成26年はラテックス凝集反応法, 平成27, 28年は簡易ELISA法により検定

2) 採集月日: 平成28年3月2, 3, 4日 検定月日: 平成28年3月8日

※—: 未調査

### [被害の特徴と媒介虫の生態]

- ① イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病である。発病すると葉に黄白色から黄緑色の縞状の斑紋を生じ、イネの生育初期に発病すると新葉が垂れ下がってやがて枯死し、出穂期に発病すると穂が出すくんで籾が奇形や不稔となり、減収する。
- ② ヒメトビウンカは幼虫がイネ科雑草等で越冬し、4月上旬頃になると成虫になって麦圃場に飛来する。麦圃場で増殖した後、6月上中旬頃に水田に飛来する。このとき、RSVを保毒したヒメトビウンカ（保毒虫）がイネを吸汁するとイネがウイルスに感染する。

### [防除対策]

- ① RSV 保毒虫率が高かった地域および昨年 9～10 月のヒコバエ（再生稲）調査で発病株率が高かった地域では、ヒメトビウンカ防除を目的とした育苗箱施薬を行う。防除薬剤については表 2 を参考に選択する。
- ② 育苗箱施薬を行わない栽培では、6 月下旬頃に幼虫を対象とした本田防除を行う。なお、当所が調査する 4 月下旬～6 月上旬の麦圃場におけるヒメトビウンカの発生量および RSV 保毒虫率に関する情報にも十分注意する。

表 2 イネのヒメトビウンカに効果のある主な育苗箱施薬剤（平成 28 年 3 月 2 日現在）

	薬剤名	有効成分
殺虫剤	アドマイヤーCR箱粒剤	イミダクロプリド
	スターダム箱粒剤	ジノテフラン
	ダントツ箱粒剤	クロチアニジン
	フェルテラチェス箱粒剤	ピメトロジン、クロラントラニリプロール
殺虫殺菌剤*	デジタルメガフレア箱粒剤	チアメトキサム

※殺虫殺菌剤は殺虫剤の有効成分名のみ記載